
2007 環境報告書



co-op
コープネット

コープぐんま

目次

目次・コープぐんまの概要	主な環境情報受付内容と回答	8
ご挨拶(発行にあたり)	ISO14001サーベイランス審査結果	9
コープぐんま環境方針	2006年度リサイクルの取り組み	10-11
環境マネジメントシステム・	省エネ・省資源の取り組み	12-13
ISOってなあに	CO ₂ (二酸化炭素)排出量とリサイクルに	
環境管理体制	よるCO ₂ 削減効果の推計	14-15
2006年度ISO目標のまとめ(目標)	環境に関わるコストと収益	16
2006年度ISO目標のまとめ(運用管理)	2007年度すすめていくこと	17
環境法規制等の順守状況	組合員の環境活動の取り組み	18-19
環境情報受付状況・	地域と協力した取り組み	20
事故緊急事態への対応状況	あゆみ	

生活協同組合コープぐんまの概要

設立	1956年4月23日
本部所在地	群馬県桐生市相生町1-111
理事長	中嶋 源治
専務理事	梅澤 義夫
活動区域	群馬県全域
活動内容	①食品を中心に生活必需品を店舗・共同購入・カタログ事業等での供給事業 ②共済事業、保険事業、ハウジング事業等生活総合事業 ③福祉たすけあい活動、環境活動、平和活動、文化活動等組合員活動
供給高	299億7千万円
出資金	48.4億円
組合員数	21.8万人
職員数	正規職員 279人(出向者除く) パート職員 729人
事業所	店舗数 19店(中型・大型店9店 ミニ店10店) 共同購入センター数 10センター

2007年3月20日現在

年度	供給高(億円)	組合員(万人)	出資金(億円)
2006年度	299.7	21.8	48.43
2005年度	259.7	19.1	47.60
2004年度	259.6	18.6	46.06
2003年度	256.9	17.7	43.29
2002年度	260.3	17.1	41.20
2001年度	265.5	16.5	38.81
2000年度	271.4	16.1	36.48
1999年度	266.4	15.3	33.57
1998年度	259.3	14.5	30.56
1997年度	256.0	13.8	27.95

環境報告書の発行にあたり



2007年の環境報告書発行にあたって一言ご挨拶を申し上げます。

コープぐんまの環境報告書も8回目の発行となり、組合員のみなさまには遅々たる歩みではあるものの着実に前進していることが確信頂けるものと思います。

2003年5月にISO14001を認証取得し、今年度も、店舗・共同購入センター・本部等でそれぞれの目標達成に向かって一歩一歩前進させました。その結果として4年目のサーベイランス(定期審査)で、「環境に配慮した暮らし」と「持続可能な循環型社会の実現」を目指した取り組みと環境マネジメントシステム及びパフォーマンスの継続的改善への活動が「向上」と評価されました。行政との連携では、群馬県環境GS認定制度に全事業所が申請し認定された事や「県民エコDO!」や「マイバッグ持参運動」等の組合員と一体となった環境活動が、群馬県から評価されています。

また、京都議定書が2005年2月に発効されてから2年が経ちますが、その間も世界各地で地球温暖化による天候の異変が報告されています。コープぐんまは、事業所のCO₂排出量月度管理を強化するなど地球温暖化防止活動の取り組みをすすめます。

今後も様々お気づきになる点が多々あろうかと思えます。率直なご意見を事務局にお寄せいただきたいと思います。

地道な活動を大切にしつつ、たくさんの組合員さんと共に環境を守り、持続可能な社会をつくっていく所存ですのでご協力を宜しくお願い申し上げます。



2007年6月7日
生活協同組合コープぐんま
理事長 中嶋 源治

コープぐんま環境方針

理 念

CO・OP とともに はぐくむ くらしと未来

私たちは、一人ひとりが手を取りあって、
一つひとつのくらしの願いを実現します。
私たちは、ものと心の豊かさが調和し、
安心してくらせるまちづくりに貢献します。
私たちは、人と自然が共生する社会と
平和な未来を追求します。

環境方針

コープぐんまは食料品を中心とした商品の供給、製造および共済や保険などのサービスを組合員に提供していることをふまえ、コープネット事業連合との連携を強め「環境に配慮した暮らし」と「持続可能な循環型社会の実現」を目指し、以下の環境活動をおこなっていきます。

事業活動を通じ、環境負荷を軽減する仕組みをつくり、定期的な見直しと環境マネジメントシステムの継続的な改善によって、地球環境保全と汚染の予防につとめます。

環境保全に関する法規制およびコープぐんまが受け入れを決めたその他の要求事項を順守します。

- ① 環境に配慮した商品の普及をすすめます。
- ② 環境活動の大切さを認識する組合員を増やし、地域での連携を広げていきます。
- ③ 地球温暖化防止につながる省エネルギー・省資源をすすめます。
- ④ 廃棄物の削減と再資源化をすすめます。
- ⑤ グリーン購入をすすめます。

この環境方針は、コープぐんまのために働くすべての人に周知するとともに、コープぐんまの内外に公表します。

2002年9月9日制定
2007年2月27日改訂

生活協同組合コープぐんま
専務理事 梅澤 義夫

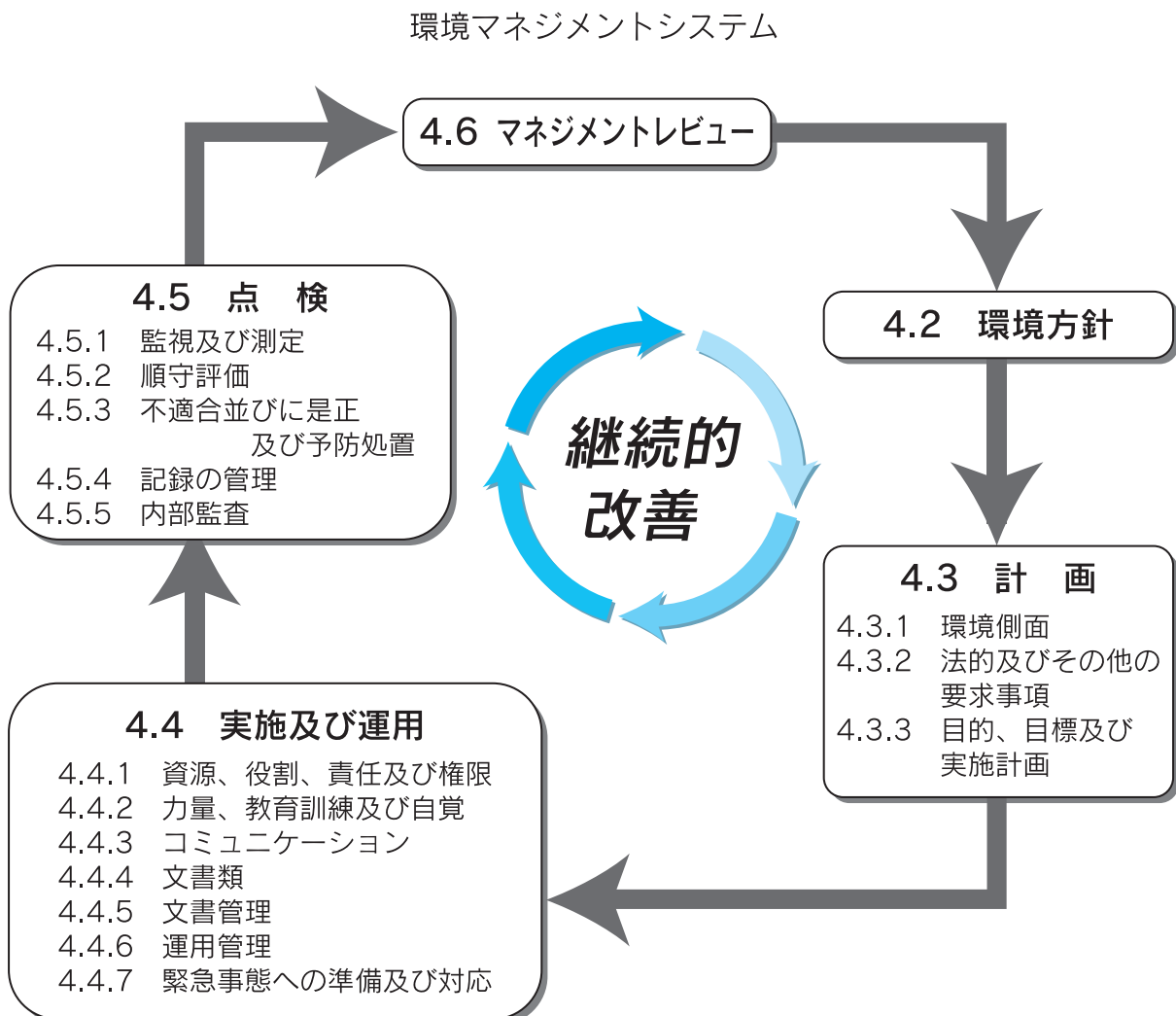


環境マネジメントシステム

コープぐんまは、2003年5月に審査登録機関JACO（日本環境認証機構）よりISO14001を認証取得して温暖化防止活動と環境活動に取り組んでいます。

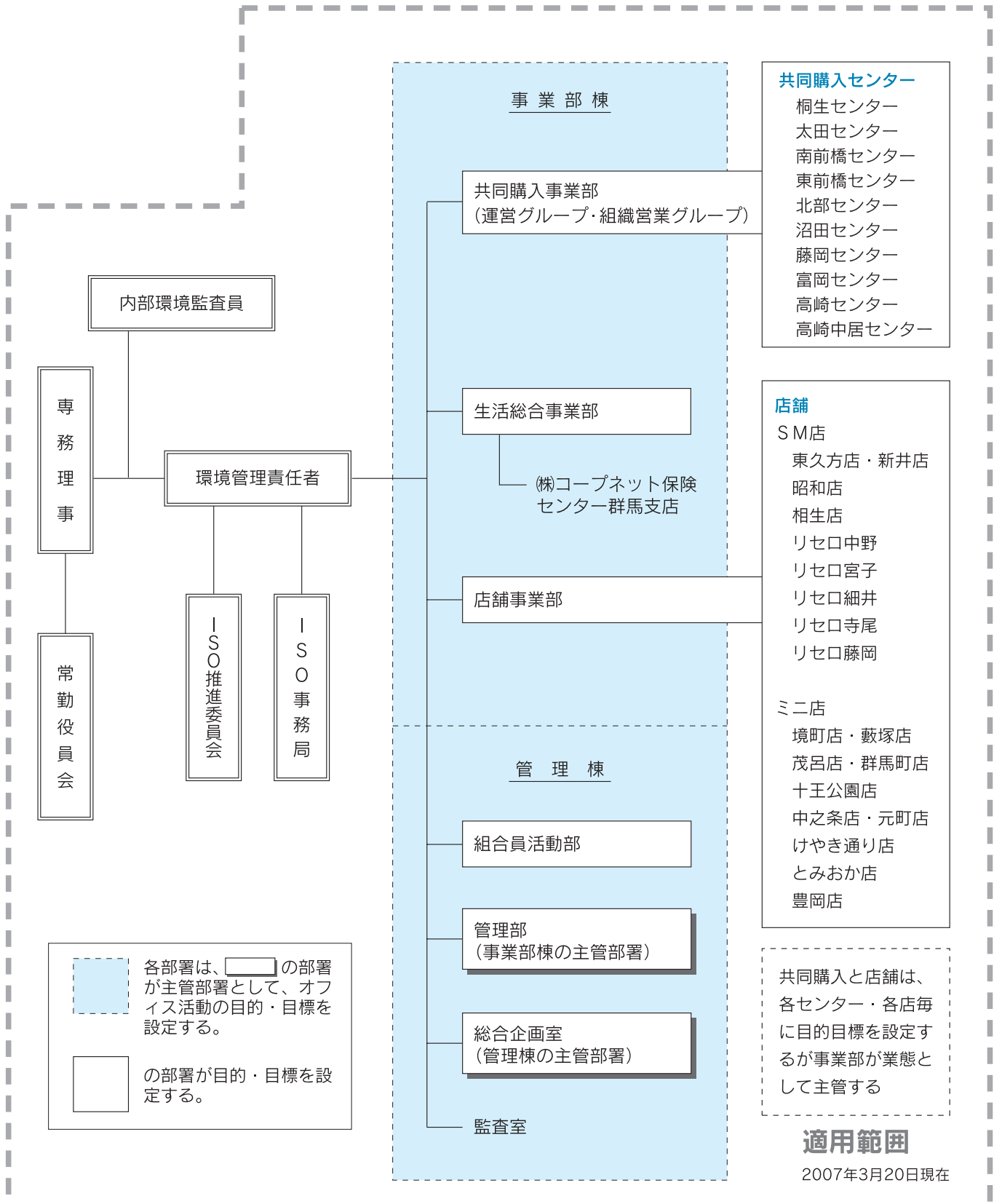
ISOってなあに

ISO14001は、国際標準化機構（International Organization for Standardization : ISO）が、1996年に発行した環境管理の仕組みに関する国際標準規格です。2004年度に改訂され、地球温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨など、様々な地球環境問題が深刻化する中、環境保全型企業活動の一つの手段として、ISO14001を導入し「持続可能な経済社会システム」の構築に積極的に取り組んでいく企業が増加しています。



環境管理体制

2006年度は、環境マネジメントシステムを更に発展させるために、下記の体制でさらに役割や責任を明確にして取り組みを強めました。



2006年度 ISO目標のまとめ

2006年度 ISO14001の取り組み・年度のまとめ(目標)

方針	目標項目	目標値	実績	累計での達成率	評価	コメント
1 環境に配慮した商品の普及をすすめます。	環境配慮商品の普及	【共同】①6月と10月の環境月間の際に、特に環境に配慮した商品を組合員にアピールし普及・強化します。 ②又、6月にはWエコキャンペーン(環境配慮商品を選びましょう。利用した商品の1%相当を環境保全団体に寄付します。)を実施し、普及を強化します。 ③コープフェアの際は環境に配慮した商品の押し出しを強化しポスター・チラシで呼びかけを行います。 ④環境に配慮した商品のセール時の押し出しを強化します。 【店舗】①環境月間の取り組みに積極的に参加し、環境に配慮した商品普及を進めます(5月4回~6月2回) ②環境配慮商品をお知らせすることで、組合員のリサイクルへの関心を高めます。 ③環境商品の学習会を各センターで開催し重要性の再認識を行い、商品の特徴についても学習会を実施します。	【共同】①環境月間の取り組みで環境に配慮した商品普及を進めました。 ②コアノロールのおすすめ活動や無洗米の普及を実施しました。 ③環境商品の学習会を各センターで開催し重要性の再認識を行い、商品の特徴についても学習会を実施しました。		○	【共同】環境月間内の数値より、過ぎた月の方が利用点数が高い、という結果でした。スタートが遅れずれ込んだ形となりました。事業所によって到達状況にはバラツキがありました。 【店舗】①環境月間の取り組みで環境に配慮した商品普及を進めました(5月4回~6月2回、9月4回~10月3回) ②無洗米の普及、コープ洗剤の普及を実施しました。 ③環境商品の学習会を各センターで開催を要請しましたが、資料提供の範囲となってしまう、学習会の徹底が確認できませんでした。 ④環境配慮商品の供給数量、全体供給比率等をノーツに添付しました。
	布団の打ち直し丸洗いの増加	1,134点	1,242点	109.5%	○	第3四半期は単月計画割れを起こし厳しい状況でしたが第4四半期が好調で年間計画を達成できました。リサイクル商品として認知されています。
3 環境活動の大切さを認識する組合員を増やし、地域での連携を広げていきます。	環境活動に参加した組合員拡大	898人	526人	58.6%	×	環境活動参加者は526名で、当初目標750名、見直し目標898名には届きませんでした。 未達原因の一つとして、自然観察や環境学習、測定活動など多くのコープ会が取り組んだ昨年のような動きになりませんでした。組合員活動の見直しにより、重要な協議事項が多く、環境関連の提案が、エリア会で論議されず、エリア会から企画提案されない状況が続きました。新規提案や目標の見直しで後半に提案を増やしましたが、コープ会の自主性尊重により、厳しい状況は変わりませんでした。次年度に向けて、個人やコープ会が自主的に参加できるように提案と申し込みの仕組みを検討します。
	地域での連携活動の拡大	①県マイバッグキャンペーン開始・店頭啓発活動 ②県民エコDO! 組合員・事業所へ提案 ③NPO法人調査継続	NPO法人・他調査(合計14団体調査)		○	ほぼ予定通りに遂行できました。群馬県環境フェスティバルへの参加のみ、グリーン21委員会の協議の結果不参加になりました。2年続けての不参加であり、今後の計画は検討が必要です。
5 地球温暖化防止につながる省エネルギー・省資源をすすめます。	車両燃費の向上	5.49km/ℓ	6.63km/ℓ	120.8%	○	コープぐんま自主規制として、制限速度の順守と上限50km規制を継続実施できました。 EMS車載機の実験導入を北部、藤岡センターで9月からできました。効果としては、急発進、急カーブ等の運転抑制効果があり、マナーアップ運転を意識できるようになりました。また、使用状況を全体で共有することで、全体でレベルアップできました。
	電気の使用量削減	1,292,751kwh/千坪	1,273,025kwh/千坪	98.5%	○	後半の暖冬の関係で店内エアコン使用量が抑えられました。89%の構成を占める店舗では100.4%と善戦を基に、各事業所の努力が実り全体達成に貢献しました。
7	商品苦情回答所要日数の短縮	13日	13日	100.0%	○	回答所要日数では、会員生協回答分が月3件程度に減少し、コープネット回答がほとんどを占める中、独自にコントロール可能な事項が少なく、要請という形に変化しました。結果はコープネット業務改善も進行し目標値をほぼクリアし、回答日数も安定しました。回答の遅れが原因の二次苦情は発生しませんでした。
8 廃棄物の削減と再資源化をすすめます。	リサイクル回収強化とルールの見直し	①組合員に対しての回収ルールを案内を定期的実施します。 ②リサイクルのお知らせを定期的にニュースにて組合員に実施します。 ③環境配慮商品の普及に合わせて、リサイクルの関心を高める取り組みを進めます	よみかきコープ3/3回号で「みんなでリサイクル」を掲載したまごパック、ペットボトル、牛乳パック、食品の発泡スチロールトレイの回収ルールを案内しました。全体で62.7%の回収実績となりました。 ペットボトル、食品トレイ、たまごパック、内袋の4資源回収が前年比106.4%となりました。		○	リサイクル全体の回収実績は前年比106.4%と伸張り、定期的なtokutokuぐんまでの呼びかけと環境配慮商品の取り組みにより前進しました。またSペーパーの回収ルールも確立され、定期的な回収が実施されています。 また、4資源の回収実績(年間)についても組合員へのアナウンスが定期的実施できたことにより前年比116.9%と伸張できました。
	廃棄ロス率の削減	1.084%	1.035%	95.5%	○	廃棄ロスの削減は、重点対策部門を設定し、そこを重点に改善策に取り組んだ成果が数字に表れてきたが、店舗によっては在庫削減や適正発注などが余り進まず未達成でした。未達成店舗：相生、新井、細井、寺尾、境町、茂呂、豊岡の7店でした。
10	可燃ゴミの排出量の削減	10,498kg	4,696kg	44.7%	○	生産工場の閉鎖分も予算化したのが、予算との乖離が多かったです。また、本部様の予算も前年実績を基に立てたが、大掛かりな整理や清掃が今年はなく、同様に大きく達成しました。6ヶ月前に目標数値を見直しましたが、結果、38.2%で達成しました。
11	グリーン購入をすすめます	グリーン購入拡大 33アイテム	23アイテム	69.7%	×	年度を通して、文房具・レシート用紙の基準外購入が複数見られます。文房具については、再度グリーン購入の徹底を、レシート用紙に関しては、新POSを導入した店舗については、グリーン購入基準から除外していただきたいと思います。

2006年度 ISO14001の取り組み・年度のまとめ(運用管理)

	運用管理項目	月次計画	評価	コメント
1	監査指摘事項の是正内容・是正計画	環境管理責任者は、ISO推進委員会で内部環境監査の指摘事項の是正処置結果を確認する。	○	2006年度の監査の是正結果報告は、主に06年の1～2月に推進委員会で確認しました。
2	要請事項	6月頃までに取引先関係要請事項登録表CGE-308によって文書で商談時あるいは郵送で要請する。	○	各部署は、6月・7月・8月にCGE-308に基づき要請をおこないました。
3	事故・緊急事態	①機械破損、作業の誤りなどによる食用油の流出	○	【店舗】発生せず。
4	コピー用紙の管理	<p>【店舗】</p> <p>①パソコンで使用する用紙は極力裏面使用とする。 ②プリントアウトする場合は必要性を確認する。 ③使用済み用紙はミックスペーパー・Sペーパーに分類して回収箱に投入する。</p> <p>【共購】</p> <p>①コピー、印刷用紙の裏面使用の継続。特に内部会議資料については裏面使用を徹底する。 ②印刷部数は対象人数を確認し、無駄な印刷が発生しないようにする。 ③センターで発行するニュースは内容の調整を行うと同時に、両面印刷等での情報。</p>	○	<p>【生総】計画通りを行う。07年度から、生総部・保険C別々に管理します。</p> <p>【店事】計画通り実施。</p> <p>【共購】使用実績は絶対値で前年比112.6%、組合員1万人当りでは前年比104.5%となりました。 ・運用通りの手順となっていますが、センターでのニュース発行の増加などで紙の使用量は増加傾向にあります。 ・コピーの裏面使用、両面コピー・両面印刷の運用は徹底できました。</p> <p>【店舗】全体的には、再利用の意識が高まり取組みは進みました。CNから送られてくるデータ量の多さで再利用しきれない面もありました。</p>
5	レジ袋の管理	<p>①県のマイバッグキャンペーンと連動し買物袋持参の呼びかけを行なう。 ②買物袋・マイバスケットの利用促進を呼びかける。 ③レジ袋は在庫を確認し適正な発注を行なう。 ④ポイントカード・スタンプカードの取組みを組合員に紹介し参加利用の促進を計る。 ⑤レジ袋使用量はISO掲示板で確認する。</p>	○	レジ袋使用量は1年間で総計4675.5千枚となった。①、②、④の取組みを中心にレジ袋使用量の削減に取組みました。
6	可燃ゴミの管理	<p>【店舗】</p> <p>①店舗で発生した紙ゴミはミックスペーパーとSペーパーと紙ゴミに分別する。 ②紙ゴミとプラスチックゴミは可燃ゴミとして廃棄する。生ゴミは紙ゴミ、プラスチックゴミと分別して廃棄する。 ③可燃、不燃ゴミは記録表に記録し、月1回店舗事業部に送付する。</p> <p>【共購】</p> <p>①可燃、不燃の分別徹底を継続する。 ②ドライアイス袋のリサイクルを継続する。 ③1袋当りのゴミの量についても管理強化する。</p>	○	<p>【共購】可燃ゴミ実数では前年比で108.3%でしたが、供給対前年比では90.5%にコントロールされました。 ・ドライアイスの包装紙は11,631kgがリユース出来、回収量の84.0%がリサイクルされました。</p> <p>【店舗】年間の排出量は可燃ごみ91,681袋+33,566kg、不燃ごみ2,188.2袋+438.5kgとなりました。</p>
7	リサイクル回収の管理	<p>【店舗】</p> <p>①回収量、リサイクル量のお知らせを記入する。 ②環境月間にあわせてレジでの声掛けを行う。 ③組合員回収BOXは定期的に回収し、回収しやすくする。 ④ミックスペーパー回収箱はバックヤード数カ所に用意し回収する。</p> <p>【共購】</p> <p>①組合員へのリサイクル回収の呼び掛け(ニュース)をセンターニュース、tokutokuくんまで、月1回定例化する。 ②加入者に対してリサイクル回収の説明を実施します。 ③環境配慮商品のお知らせを進める中でリサイクルの関心を高める取組みを進める。</p>	○	<p>【共購】リサイクル資源回収は77,806kgと前年比では230.0%の回収実績でした。資源の実績は2,656kgで前年比113.2%の回収実績でした。運用手順通りの実施はできています。</p> <p>【店舗】ペットボトル3,441.0kg、食品トレイ540.0kg、たまごP186.3kg、牛乳パック2,035.2kg、ミックスペーパー1,543.6kg 合計7,746.1kg</p>
8	グリーン購入の管理	<p>①物品購入時は、「グリーン購入基準表」に基づく品を購入する。 ②グリーン購入の実績は、月末までに「グリーン購入実績集計表」を記入の上管理部へ送付する。</p>	○	<p>【総合企画室】特に新たな購入品はありませんでした。</p> <p>【共購】手順どおりの運用になっています。</p> <p>【共事】3月度グリーン購入は コピー用紙 ○ マジック ○ ボールペン ○</p> <p>【生総】4品目購入。</p> <p>【組活部】通常通り。</p> <p>【店事】手順通り実施。</p> <p>【店舗】手順通り実施していますが、細井が遅れています。</p>

環境法規制等の順守状況

コープぐんまでは、消防法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、浄化槽法、改正リサイクル法、廃棄物処理法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、食品リサイクル法等15の法令の規制を受けています。2006年度は、内部監査で浄化槽管理に関して「保守点検不足とBOD数値異常」が重大と指摘されました。(2006年3月21日～2007年3月20日)

環境側面	法律・条例・協定	法規制の内容および条項	対象となる商品・活動・施設
法への対応	消防法	防火管理者の選任・解任届出 (H8) 消防計画作成(変更)届出 (H8) 消防計画(消火訓練・避難訓練・消防設備保守点検)の実施 指定可燃物の管理 (H9の3) 発泡包材樹脂: 20㎡以上貯蔵	各事業所 (支援: 管理部総務G) 全共同購入センター
排水	水質汚濁防止法	貯油施設事故時の緊急措置義務 (H14の2) 貯油施設から油を含む水が公用水域に排出又は地下浸透により、生活環境に関わる被害が生ずるおそれのある場合、応急措置及び知事に通報	SMI店、食堂 (管理部)
解体時排出	大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業 (H2、R3の3) ・特定粉じん発生の可能性のある建築材が使用されている建築物を解体、改造、補修する作業をいう ・特定粉じん排出等作業を行う工事施工者は、施工の14日前までに都道府県知事に届出を行わなくてはならない	管理部総務G
排水	浄化槽法	対象になる施設の管理 (H5～) ・届出 ・法定の定期点検実施 (H11) ・保守点検記録の3年間保存 (H8)	浄化槽を設置している事業所
組合員からのリサイクル推進PCの排出	資源の有効な利用の促進に関する法律 (改正リサイクル法)	分別回収のための表示義務 (H24) 2003年4月1日より、H25の罰則適用 2001年4月より施行 2003年10月～PC価格に処理費用上乗せ	PB商品のほか、レジ袋、紙袋、包装紙も該当する。
各種ゴミの排出	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃掃法)	一般廃棄物の委託業者との契約 (H7) ・収集運搬・処理業者は市町村長の許可が必要 産業廃棄物の保管 (H12.2) (産業廃棄物保管基準) ・保管施設で行ない飛散、流出、地下浸透しない措置 ・周囲に囲いを設け、保管場所であることの表示 ・ねずみ、蚊、はえその他の害虫が発生しないこと ・廃棄物の荷重が直接かかる場合、構造耐力安全な囲い 産業廃棄物の委託基準 (H12.3) ・知事の許可を受けた収集運搬業者、又は処分業者に委託する ・契約はそれぞれ書面にて行う 産業廃棄物の管理 (H12の3) ・排出された廃棄物については、マニフェストで管理する ・運搬、処分を受託した事業者の氏名または名称明記を確認し管理する ・B2票、D票 (90日) E票 (180日) 返送ない時、処置を講じ30日以内に知事に報告 ・マニフェスト (A票B2票D票E票) は5年間保存	全事業所、管理・事業部棟 (一般廃棄物)
		特別管理産業廃棄物の収集運搬、処分等の委託 (H12の2、R6の6) ・吹き付け石綿は、「特別管理産業廃棄物」に分類される ・委託の基準 (業者の許可条件、委託契約書等) に従い委託する ・排出された廃棄物については、発生から最終処分が終了するまでマニフェストで管理する。(A票B2票D票E票) は5年間保存 ・処理内容について帳簿に記載し5年間保存する	特別産業廃棄物 (アスベスト) : 管理部総務グループ
包装用資材の使用	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律 (容器包装リサイクル法)	特定容器利用事業者 (H2.11) ・指定容器包装利用業者 ・再商品義務量の再商品化 ・容器包装多量利用事業者 (容器包装使用量50 ^{トン}) の報告	管理部総務G、全事業所 (PB商品、ポリ袋等) 管理部総務グループ
法への対応	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	自己所有対象家電の廃棄処理 管理表の発行・管理義務 (H43)	全事業所、管理・事業部棟
生ゴミの排出	食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律 (食品リサイクル法)	事業者の義務 (H4)	全事業所
法への対応	使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	自動車の廃棄時のカーエアコンのフロン回収・処理は、県庁に登録した回収業者に処理を依頼し、費用負担をしなければならない。	管理部総務グループ
解体時排出	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法)	対象建設工事の届出 (H10) 発注者として再資源化費用の負担、再資源建設資材の利用促進 (H6)	管理部総務グループ
フロンの使用	特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 (フロン破壊回収法)	第一種特定製品 (業務用エアコン、冷蔵機器及び冷凍機器) 廃棄者の義務 (特定製品の引渡とフロン類の回収等費用負担) (H5)	全事業所
法への対応	農薬取締法	販売事業所ごとに届出が必要 (第8条) 販売の業務を行う事業所ごとに帳簿の備えが必要。(第10条)	管理部総務グループ
法への対応	肥料取締法	販売事業所ごとに届出が必要 (第23条) 販売の業務を行う事業所ごとに帳簿の備えが必要。(第27条) (ただし事業所別管理ができていれば本部での一括管理でもよい。)	管理部総務グループ

環境情報受付状況・ 事故緊急事態への対応状況

環境情報受付状況

2006年度の環境情報は、10件でした。すべて、組合員さんからの発信で外部からのご意見やクレームはありませんでした。

「ごみ分別・リサイクル」の関係のご意見が半分でした。次いで「マイバッグ運動」についてのご意見の順でした。

いただいたご意見を検討しましたが、環境の目的目標、運用管理、取引先への要請項目に直接反映させる内容はありませんでした。

	環境に対する意見・問い合わせの総数	10	
1	環境問題全般	2	20%
2	ごみ分別・リサイクルなど	4	40%
3	マイバッグ運動	3	30%
4	商品の環境配慮	0	0%
5	化学物質（ダイオキシン・環境ホルモンなど）	0	0%
6	自然環境（森林・大気・水・土壌など）	1	10%
7	資源・エネルギー	0	0%
8	その他	0	0%
うち クレーム		2	20%



事故・緊急事態が発生した場合の対応結果

想定される事故・緊急事態を下記に特定し、発生予防および発生してしまった際の対応を手順によって訓練や日常点検をおこないながら管理していましたが、事故・緊急事態の発生はありませんでした。

想定される事故・緊急事態	想定事業所	発生の有無
機器破損、作業の誤りなどによる食用油の流出	中大型店の各店舗	無



主な環境情報受付内容と回答

主な環境情報受付内容と回答

声の種類	受付日	メッセージ	回 答
メッセージ	2006年 4月18日	COOPリサイクルデータについて。牛乳パックは私もリサイクルに必ず出すようにしています。開き方（出し方）についての方法、COOPのものしか取り扱わないのを知りたいです。開き方については、ハサミで切っています。以前何かで、手で開くような方法を見ました。それは少し無理がある気がします。教えて欲しいです。	コープぐんまのリサイクルにいつもご協力頂きありがとうございます。お問い合わせの牛乳パックの開き方ですが、どんな形の開き方でも回収します。開き方としては、様々あると思いますが、お店の牛乳パック回収箱や牛乳パックにも記載されていますので参考にして下さい。また、牛乳パックは、COOPのものだけに限定していません。他社製のものでも回収しています。よろしく願い致します。
私のこえ	2006年 9月2日	お買物の布の袋が小さくて商品が少ししか入りません。有料でも良いのもう少ししっかりした大きなマイバッグの袋を用意していただけないでしょうか？他のスーパーではあります。生協さんもCOOPのマークを入れた布袋は良い宣伝にもなると思います。	ご利用ありがとうございます。レジ袋有料化との関係でコープネットで作る計画がありますが期日がはっきりしません。出来るだけ早い時期に一般販売用の大きなマイバッグを扱えるように致します。なおマイバスケットも取り扱っていますので検討いただけますようよろしくお願いいたします。
私のこえ	2006年 10月17日	マイバッグ（布製）のもっとグレードのよいのを扱ってください。カゴは車の方しか持てないので…もっとおしゃれっぽいのがほしい。300円～500円くらいでもいいです。共同購入ではもっとアイテムもあるし、他のスーパーでも売ってます。	いつもご利用ありがとうございます。現在、低価格でご利用できるものをご提供しておりますが、ご要望されているような価格帯で、他の生協で現在販売している袋がございますが、ご利用実績が低くミニコープでの取扱いの判断には至っておりません。また、マイバッグについては、コープネットとして統一的な商品の選定や検討を行っており、現状では、おしゃれなバッグでは500円～700円の価格帯のものとお低価格帯の2種類が候補に上がっておりますが、決定にはいたっておりません。もうしばらく、お時間をいただきたいと思っております。ご不便をおかけいたし誠に申し訳ございません。
私のこえ	2006年 11月1日	現在マイバッグキャンペーン中だと思いますが、「買物袋は要りません！」と毎回レジの方に言っているのに、COOPのカードにポイントを付けてくれるのみで今までチラシはもとよりキャンペーンのスタンプの話は一切なく、キャンペーンをしていることを知らず、棚にある啓発チラシを見て知りました。9月の当初にもっと啓発運動をして欲しかったです。	いつもコープリセロ寺尾をご利用頂きありがとうございます。マイバッグキャンペーンについて組合員さんへの説明ができなかった件につきまして大変申し訳ありませんでした。本来ならば「買い物袋」を辞退された時にマイバッグキャンペーンの応募用紙と協力の依頼文章を差しあげてキャンペーンへの参加をお願いするはずですが、パート・アルバイトへの指示が徹底されておらずご迷惑をおかけしました。ご指摘の内容をパート、アルバイトに提案し再点検し再発防止を徹底してまいります。今後もしセロ寺尾をご利用いただけますようお願いいたします。
ふりーとーく	2007年 1月18日	COOP醤油のラベルをはがすのが大変です。水につけたり、こすったりしなくても良い薄めののりを使用する事はできないのでしょうか？リサイクルに出すのにけっこう時間がかかってしまうのでできるだけ簡単にしてほしいです。以前は簡単にはがせるものがあったのですが…最近では水につけないとだめです。	ご意見をいただき誠にありがとうございます。飲料のペットボトルはプラスチックラベルがミシン目入りのシュリンク包装になっており、簡単に取り除くことができますが、醤油を含めた調味料などのペットボトルは糊付けされた紙ラベル巻きになっていて、簡単には剥がせません。糊付けを弱くした場合、流通過程で剥がれ落ちる恐れがあり、商品としては不良品になってしまいますので、現実的な対応としては飲料ペットのようにシュリンク包装するべきと考えますが、現在はそのような装丁になっていません。これは飲料と比べると流通量をはるかに少なく、業界の認識が飲料ペットの水準に達していないのが現状でございます。今後もご意見を参考に醤油業界に声をかけてまいります。
ふりーとーく	2007年 3月19日	トレイの回収をしています。色がまざってもかまわないのですか？	いつもご利用いただき、またリサイクルへのご協力ありがとうございます。ご質問にお答えします。食品トレイ（発泡スチロール）店舗回収分は、メーカーでカラートレイと白色トレイを手分別しているため、割らずに回収箱に入れていただければ、まざっていても大丈夫です。回収された食品トレイ（発泡スチロール）は、エコベンチや椅子の芯材・食品トレイ・ビデオケース・文具などの原料にリサイクルされています。共同購入の食品トレイ（発泡スチロール）の回収は、大変申し訳ありませんが、白色のみに限らせていただいております。リサイクルメーカーに食品トレイを選別する体制が、出来ない事が要因です。今後ともコープぐんまのリサイクルへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ISO14001 サーベイランス審査結果

【2007年4月25日 ISO推進委員会ニュース 発行 ISO事務局】

4月18日(水) 19日(木) 20日(金)の3日間、審査登録機関JACO(日本環境認証機構)の2名の審査員によって、サーベイランス審査が実施されました。

※昨年の更新審査(2003年から3年間取り組み、登録更新のための審査)後の1年次の維持審査(コープぐんまの環境マネジメントシステムがISO14001の適用規格に適合していて、有効に稼働しているかどうかを審査)の受審でした。

サーベイランス(維持)審査の結果は、評価基準で最良の「向上」の判定をいただきました。

以下の内容が特に評価されました。

- リサイクルルート見直しによる廃棄物処理費の削減や車載機の実験導入による目的目標の達成
- 社会的要求及び社会的責任である「CO2の排出抑制」を目的・目標として設定
- 内部職員が監査チームのチーム長となりグループ生協からの監査員と共に監査を実施し監査員の力量アップ等有効性向上
- 環境活動で群馬県との連携やWエコキャンペーン収益募金等の地域に貢献

※審査所見報告書より抜粋



東久方店 大橋店長
「グリストラップもきれいです」



共同購入事業部 早川さん
「100万円コストダウン出来ました」

サーベイランス審査で“最良”の“向上”の判定を受ける!

※指摘事項は、次ぎの1つの不適合と3つの観察事項でした。

不適合 ①浄化槽の規制値オーバー

観察 ①環境影響評価方法の補足手順は、誰が実施しても同じ結果にならない

②一部「力量評価」の基準が不明確である

③目標、3ヶ月目の未達成についての対応が不明確である

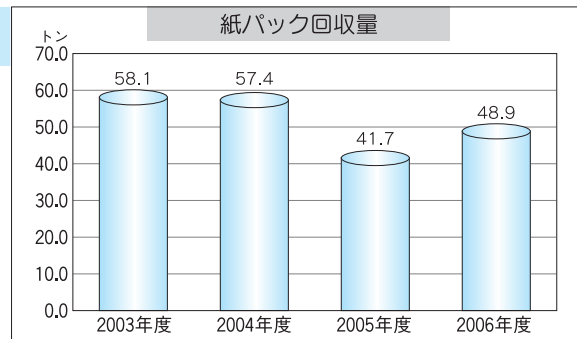
そのほか、口頭での意見をいただき改善すべき点もたくさん浮き彫りになりました。今後の対応及び改善が重要ですのでISO推進委員会で検討し、確実に是正していきます。

環境管理責任者・小林 香

2006年度リサイクルの取り組み

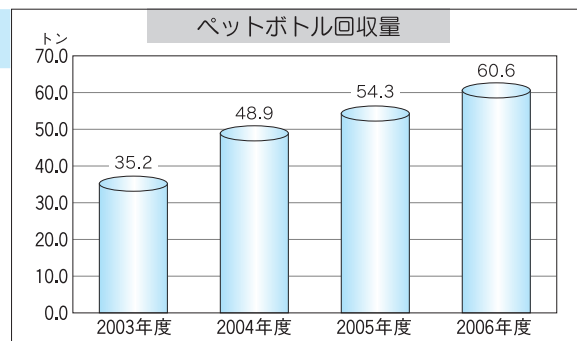
牛乳パックの回収

2006年度は、48,919kg、163万枚の紙パックの回収ができました。製造原料のうち紙パックを30%使用したコアノンロールで換算しますと48万ロール再生されたこととなります。自治体やスーパー店頭等での地域での回収がより活発になっており、回収量は減少傾向でしたが、リセロ藤岡の新規開店や高崎中居センターが10月より回収を開始したことにより増加しました。



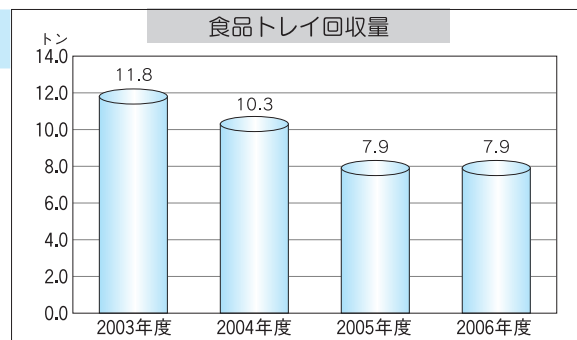
ペットボトルの回収

2006年度は、60,642kg、114万本のペットボトルが回収されました。高崎市のリセロ寺尾・豊岡店・けやき通り店はそれぞれの市の資源回収拠点として連携しています。コープで回収しているペットボトルは、組合員さんがきれいに洗って、回収品として最上級です。



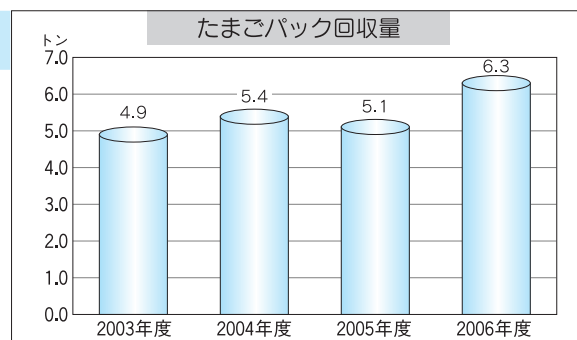
食品トレイ回収

2006年度は、7,874kg、約157万枚のトレイの回収ができました。店舗業態では商品づくりや特性上から最少限カラートレイを使用しています。店舗のみ98年下期からカラートレイの回収も開始しました。



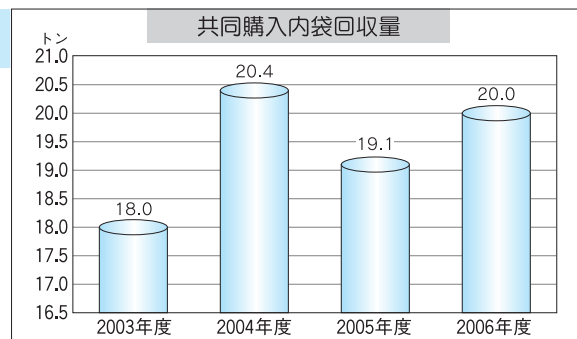
コープたまごパックの回収

2000年度4月より、共同購入が2001年4月より中大型店でコープたまごパックの回収をはじめました。2006年度は、6,363kg、約47万パックの回収が実現しました。2003年度よりミニ全店でコープたまごパックの回収が始まりました。



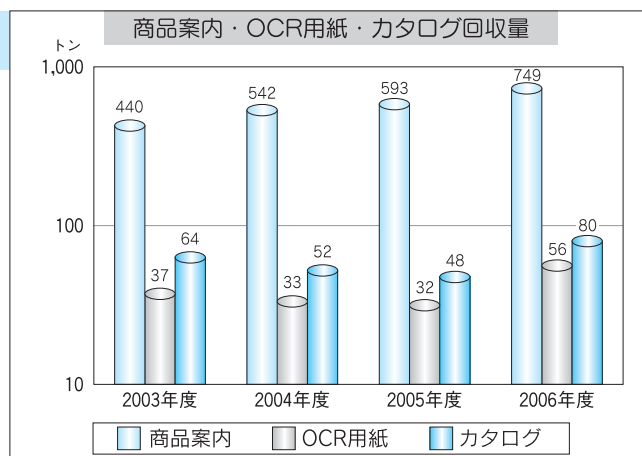
共同購入内袋の回収

2000年度4月より、共同購入がシッパーの内袋の回収をはじめました。2006年度は20,004kg・約32万枚の回収が実現しました。この内袋の材質はポリエチレン (PE) です。



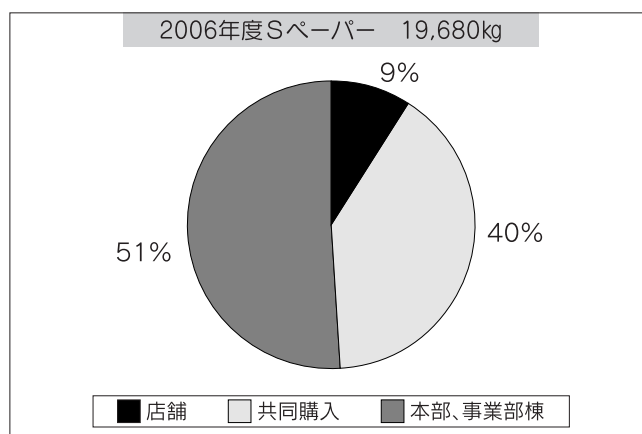
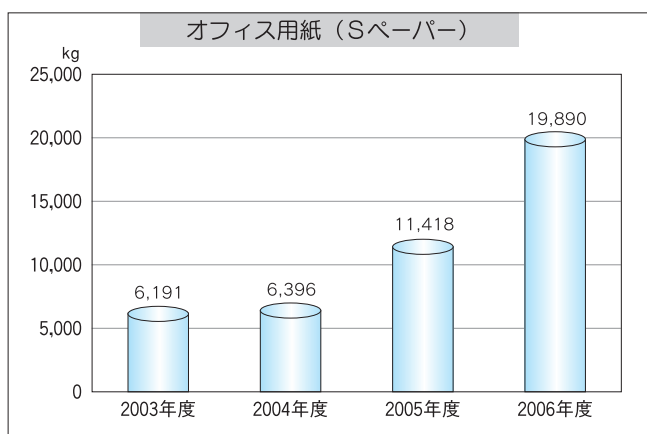
共同購入商品案内等回収

2000年度からペットボトル、トレイ、たまごパック、内袋、商品案内の回収に取り組んでいます。特に商品案内の回収量が全体の底上げをしています。2006年度は、170万部の商品案内を回収できました。（換算：1部当たり440g）OCR用紙と商品案内・カタログのチラシもコープトレットペーパーコアノンロールの30%以上牛乳パック使用した残りの70%の古紙の部分に再生されています。リサイクルルートは、牛乳パックと同様です。



オフィス用紙リサイクル（Sペーパー）

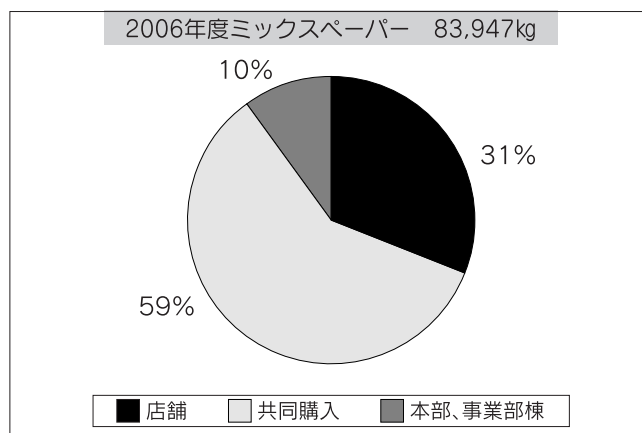
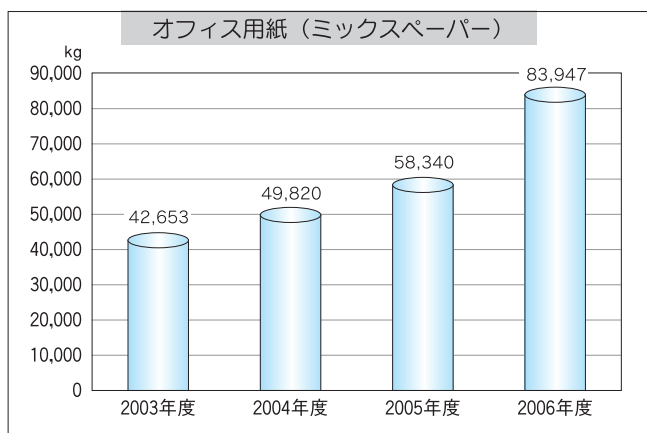
Sペーパーは、“シークレット”“セキュリティ”の頭文字Sの造語です。組合員さんの氏名、住所、電話番号、出資金状況、商品原価が記載されている用紙が対象です。Sペーパーは、帳票用紙、コピー印刷用紙が主な対象です。共同購入センターの個人情報管理強化により、回収ルートを確認してSペーパーの処理量が大幅に増えました。個人情報管理の徹底により、Sペーパーが大幅に増えています。



オフィス用紙リサイクル（ミックスペーパー）

ミックスペーパーは、チラシ、小冊子や色紙です。

ミックスペーパーは、トイレットペーパーのコアノンロールに再生されています。

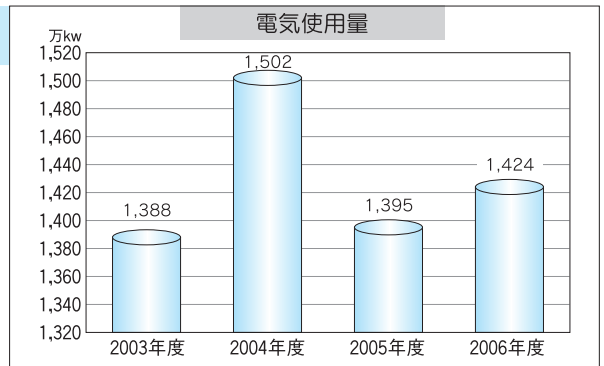


省エネ・省資源の取り組み

※中型店は売り場面積120坪～400坪 大型店は450坪 ミニ店は50坪

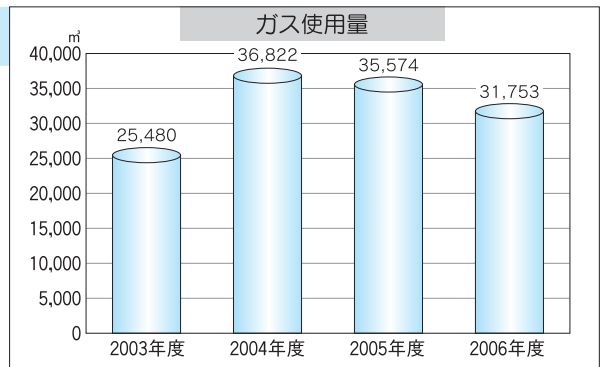
電気使用量

電気総使用量は、前年比2.1%増の1,424万kwでした。ミニ店2店舗が閉店されましたが、リセロ藤岡の開店と高崎中居センターの稼働により、大幅に増加しました。事業所では、部分点灯の実施や空調温度も暖房温度は「20℃以下、冷房温度は、28℃以上」の統一基準を設けて運用しています。すべての電源スイッチ付近に「節電や消灯」の注意書を貼っています。



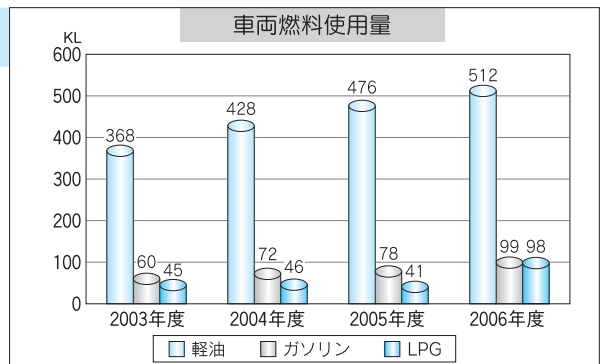
ガス使用量

ガス総使用量は31,753m³で、前年より減少しました。その要因は、生産加工施設の閉鎖により、大幅に減少しました。中大型店は、ガス総使用量の97%を占めています。



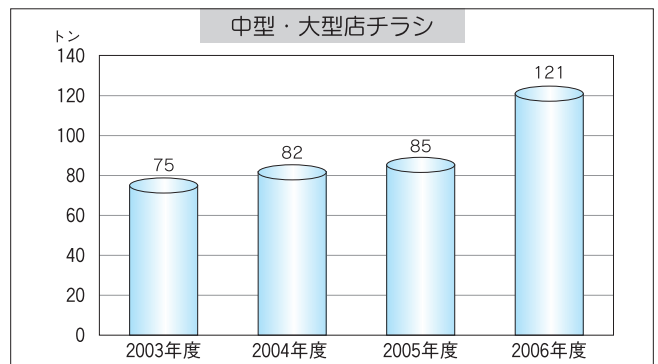
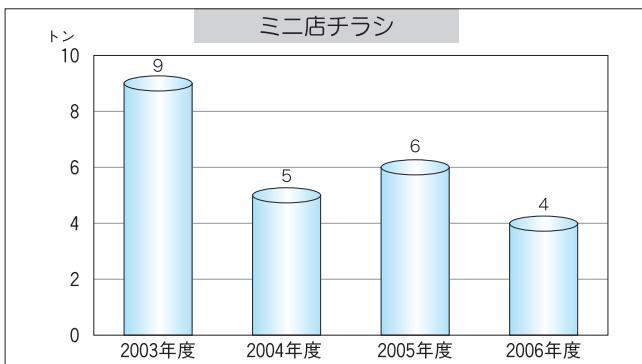
車両燃料使用量

高崎中居センターの稼働等により共同購入利用者が大幅に増加し、配送用トラックの車両燃料が大幅に増えました。配送用トラックLPG車が、専用スタンドが少ない事や車種が少ない、燃費が悪いなどの問題で、ディーゼル車に変更になりました。
※今回より共同購入委託車両燃料想定分を含みます。



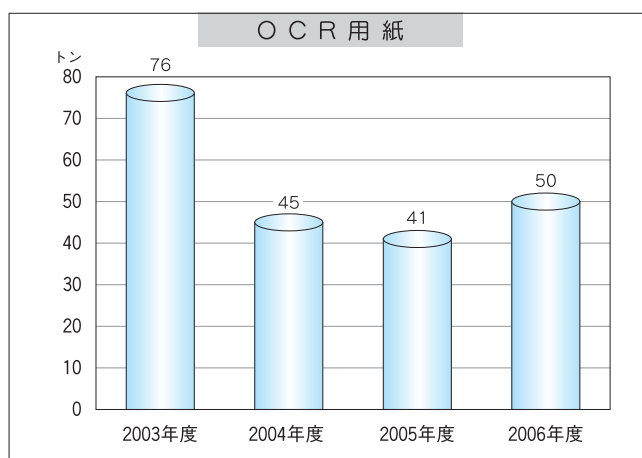
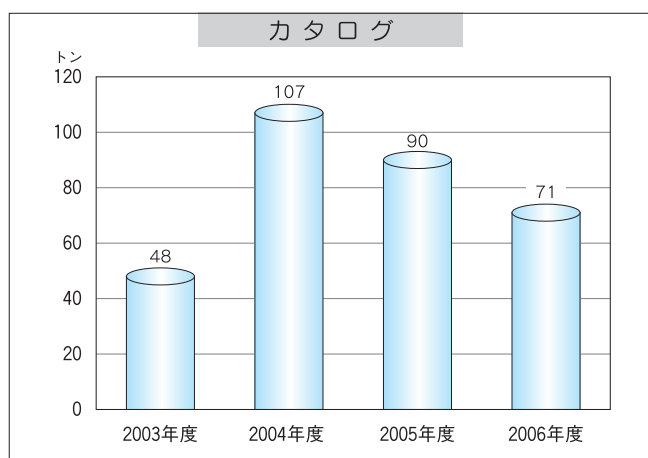
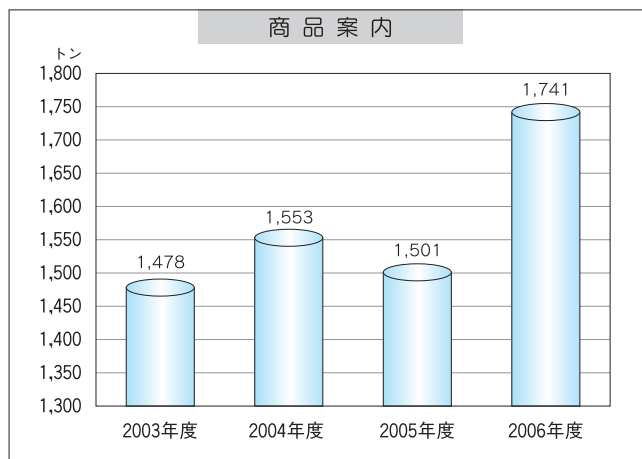
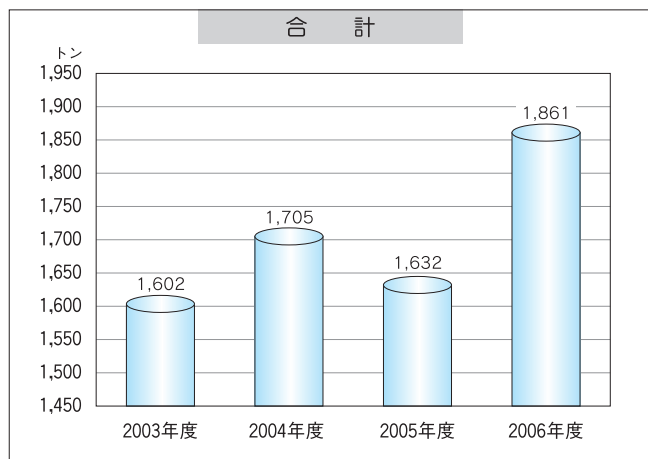
店舗紙使用量

ミニ店は藤岡店と吉井店の閉店により減少しましたが、中型・大型店のチラシは、リセロ藤岡の開店に伴い大幅に増加しました。



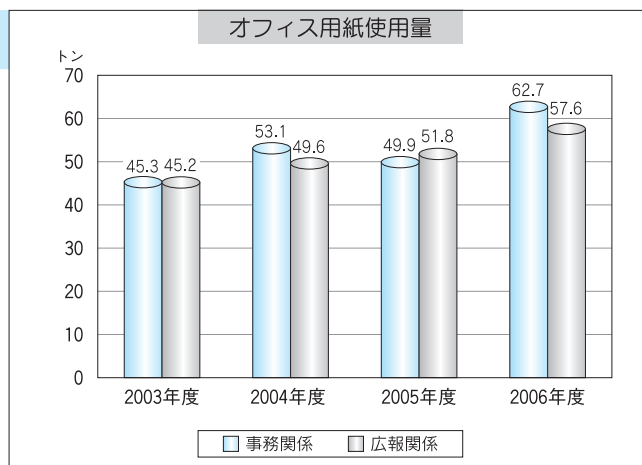
共同購入紙使用量

共同購入の紙使用量は、影響力大の商品案内とカタログの発行量が高崎中居センターの稼働により大幅に増加しました。



オフィス用紙使用量

“事務関係”では、共同購入利用者が大幅に増加したため、共同購入の印刷コピーが増加しました。“広報関係”は、組合員活動系で組織運営関連、内部ではコンプライアンス関連の対応で増加しました。



CO₂ (二酸化炭素) 排出量と リサイクルによるCO₂削減効果の推計

地球温暖化防止の取り組みが重要視されている昨今、コープぐんまも環境マネジメントを通じて、自らのCO₂の排出量や削減量を推計していきます。

排出量とは、コープぐんま自身が直接排出（燃料・電気・ガス・A重油）するCO₂の量とします。

軽油、ガソリン、LPG等の燃料は、燃焼する際に発生するCO₂の算出です。

電気は、直接CO₂を排出しませんが化石資源を燃焼させて発電するため間接的にCO₂を排出していると考えます。

2006年度 CO₂排出量

※CO₂排出量の単位 kg-C(キログラムカーボン)

種類	使用量	単位	係数	CO ₂ 排出量	単位	2005年 CO ₂ 量	前年比
軽油	511,575	L	2.624	1,342,373	kg-C/L	1,248,489	107.5%
ガソリン	98,418	L	2.322	228,527	kg-C/L	180,464	126.6%
LPG	98,440	m ³	1.681	165,478	kg-C/m ³	68,358	242.1%
電気	14,244,082	kwh	0.378	5,384,263	kg-C/kwh	5,276,446	102.0%
プロパンガス	28,706	m ³	6.094	174,934	kg-C/m ³	194,556	89.9%
都市ガス13A	3,048	m ³	2.108	6,425	kg-C/m ³	7,650	84.0%
A重油	0	L	2.71	0	kg-C/m ³	54,200	0.0%
合計				7,302,000		7,030,163	103.9%

排出係数は、日本生協連温暖化防止自主行動計画策定の手引きから引用しています。(コープぐんままで把握していない項目は除いてあります。)
車両燃料は、委託分を想定して加えました。(2005年度の委託車両は軽油のみとして算出しました。)

※CO₂排出量の増減

2006年	7,302,000 kg-C
2005年	7,030,163 kg-C
増減	271,837 kg-C

2005年対比で271.8トンのCO₂が増加しました。

生産加工施設・ミニ店が閉鎖されましたが、リセロ藤岡店の開店と高崎中居センターの運用で電気使用量が大幅に増加しました。

※CO₂の排出を係数は科学的な研究の進展、エネルギーの事情の変化、データ取得・評価方法などの多様な要因で変化するものであり、定まった数値ではありません。

同じ年度に発表された係数でも、採用した計算方法やデータによって異なっている場合もあります。

したがって、CO₂排出係数は、客観的な評価のツールとして重要なものですが、絶対的なものではありません。

2006年度 リサイクルによるCO₂削減効果

種類	リサイクル量	係数	CO ₂ 削減量
紙パック	48,919 kg	3.207	156,883 kg-C/kg
食品トレイ	7,874 kg	1.535	12,087 kg-C/kg
ペットボトル	60,642 kg	0.678	41,115 kg-C/kg
コープたまごパック	6,363 kg	0.946	6,019 kg-C/kg
共同購入内袋	20,004 kg	0.363	7,261 kg-C/kg
他紙類	992,957 kg	1.14	1,131,971 kg-C/kg
合計	1,136,759 kg		1,355,337 kg-C/kg

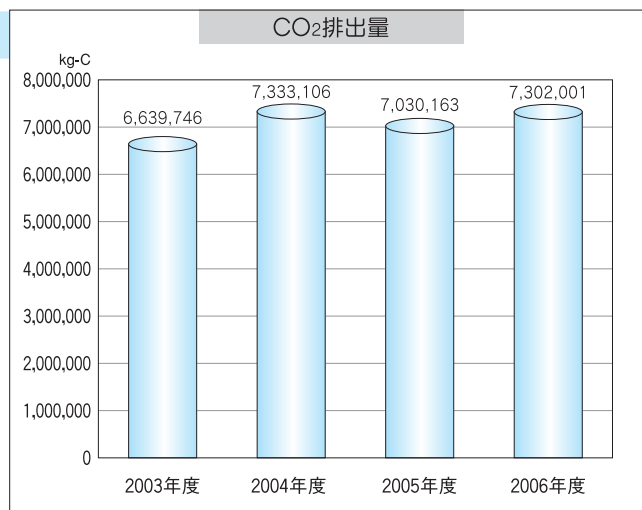
この計算値は、日本生協連が委託した外部研究機関が算定した係数を使用しています。

2006年度は、リサイクル活動によって1,355トンの二酸化炭素の排出を間接的に削減できました。

年次 CO₂ (二酸化炭素) 排出量とリサイクルによるCO₂削減効果の推計

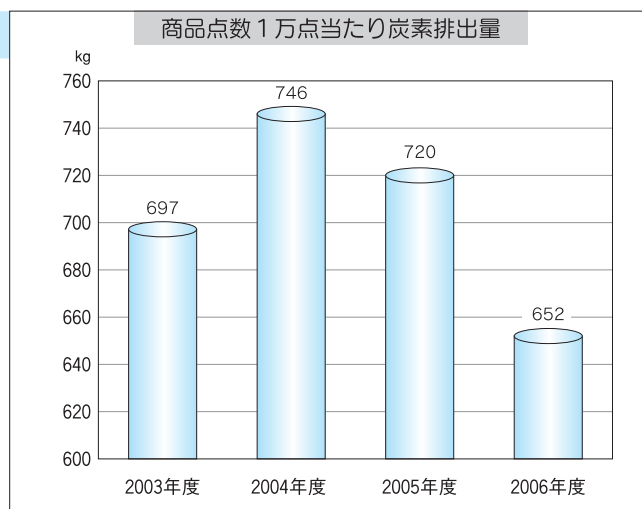
CO₂排出量推移 単位 kg-C (キログラムカーボン)

排出係数は、環境省「温室効果ガス排出二酸化炭素排出量調査報告書」から引用しました。
 大型店リセロ藤岡店の開店や高崎中居センターの稼働で電気使用量等大幅に増加し、CO₂の総排出量は2005年対比104%に増加しました。



商品点数1万点当たりCO₂排出量

商品点数1万点当たりCO₂排出量では、リセロ藤岡店や高崎中居センターの供給商品点数が増加した結果、652kg-Cで昨年より68kg-C減少しました。



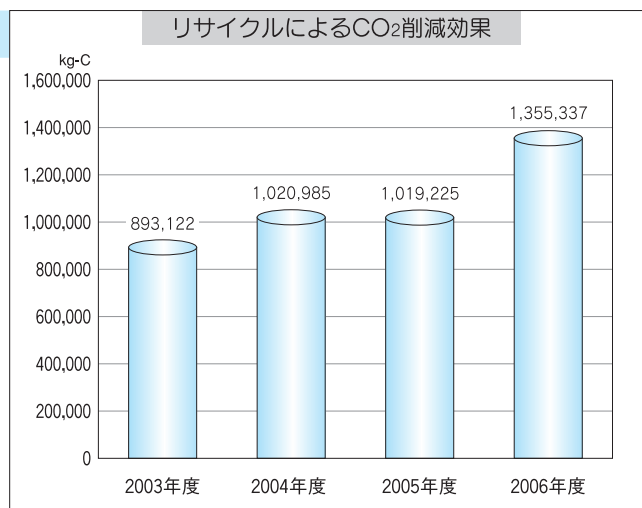
2006年のリサイクルによるCO₂削減効果

2006年のリサイクルによるCO₂削減効果は1,355トンでした。

今後もリサイクルを強化して二酸化炭素の間接的な削減に取り組めます。

※ごみとして廃棄し、新たにバージン原料を製造する場合に排出するCO₂の量と、リサイクルして再生原料を製造

※この削減効果とは、間接的な削減（他者が削減できる可能性）をもたらしていると考えています。



環境に関わるコストと収益

【コスト】

単位：円 100円以下切り下げ

項目	主な内容	2006年度	2005年度	前年比
収集運搬・浄化槽等処理費用	事業所廃棄物処理委託費用	24,727,400	22,562,000	110%
魚腸骨(アラ)リサイクル費用	飼料化	252,000	368,800	68%
食用廃油 リサイクル費用	飼料化	188,400	257,700	73%
	小計	25,167,800	23,188,500	109%
店舗リサイクル費用	中間処理、収集運搬費用	400,900	444,800	90%
共同購入リサイクル費用	中間処理、収集運搬費用	4,357,700	3,600,000	121%
リサイクル品回収箱等費用	牛乳回収ボックス、お知らせ板等	0	0	0
	小計	4,758,600	4,044,800	118%
ISO14001関連費用	更新審査費用、ハンドブック等	1,530,000	944,200	162%
環境報告書	印刷、製本	299,200	299,200	100%
マイバッグキャン登録費用他	キャンペーン参加費等	53,600	72,600	74%
	小計	1,882,800	1,316,000	143%
容器包装リサイクル費用	再商品化委託料※	10,288,000	9,711,700	106%
	合計	42,097,200	38,261,000	110%

※コープネット事業連合扱い分を含みます。

【収益】

単位：円

項目	主な内容	2006年度	2005年度	前年比
緑の資金(回収品売却益)	牛乳パック、OCR用紙	621,800	457,500	136%
合計		621,800	457,500	

○緑の資金は前年より164,300円増加しました。(共同購入ミックスペーパー等有価になったため)

2006年度緑の資金の累計とその資金運用 単位：円 2007年3月現在

収入累計	支出(運用資金)	残高
2,717,700	328,700	2,389,000

2006年度、621,800円の売却益がありました。

2006年度の支出(資金の運用)は、夏休み親子リサイクル工場見学・コアノンロール寄贈・自然観察教養講座・電気ダイエットコンクール景品等の費用でした。

【リサイクルに伴う社会的費用の削減想定金額】

単位：円

項目	主な内容	2006年度	2005年度	前年比
各種リサイクル及びレジ袋の削減	リサイクルによって想定処理費用の節約	57,640,450	46,712,370	123%

リサイクルに伴う社会的費用の削減想定金額の内訳

	単価(円)	単価(円) 2006年度	単価(円) 2005年度	前年比	重量(kg) 2006年度	重量(kg) 2005年度
牛乳パックのリサイクル	50.0	2,445,950	2,089,100	117%	48,919	41,782
共同購入紙類のリサイクル	50.0	47,085,250	33,672,000	140%	941,705	673,440
店舗紙類のリサイクル	50.0	1,394,800	1,242,800	112%	27,896	24,856
本部、物流紙類のリサイクル	50.0	1,167,800	827,750	141%	23,356	16,555
ペットボトルのリサイクル	50.0	3,032,100	2,718,750	112%	60,642	54,375
食品トレイのリサイクル	50.0	393,700	393,500	100%	7,874	7,870
コープたまごパックのリサイクル	50.0	318,150	256,700	124%	6,363	5,134
共同購入の内袋のリサイクル	50.0	1,000,200	955,600	105%	20,004	19,112
生産工場排出物のリサイクル	60.0	0	3,615,420	0%	0	60,257
買物袋持参によるレジ袋の削減	50.0	802,500	940,750	85%	16,050	18,815
合計		57,640,450	46,712,370	123%	1,152,809	922,196

○コープぐまのりリサイクル活動とレジ袋削減(発生抑制)取り組みの結果、その分廃棄処理にかかる費用を削減できたと評価しています。

重量で1,152トンの廃棄物の削減と5,764万円の廃棄物処理費用を社会的な節約としてそれぞれ貢献できたこととなります。

2007年度すすめていくこと

目標（2007年度の到達点）と目的（2009年度の到達点）

環境方針	目標（2007年度到達点）	目的（2009年度到達点）	実施部署
1) 環境に配慮した商品の普及をすすめます	2007年度末、環境配慮商品の普及を2005年度より供給高構成比で0.1%アップし2.2%にします	2009年度末、環境配慮商品の普及を2005年度より供給高構成比で0.31%アップし2.4%にします	店舗・共同購入・合算
	2007年度末、店舗の環境配慮商品の普及を2005年度より供給高構成比で0.26%アップし2.6%にします	2009年度末、店舗の環境配慮商品の普及を2005年度より供給高構成比で0.8%アップし3.2%にします	店舗事業部（店舗）
	2007年度末、共同購入の環境配慮商品の普及を2005年度より供給高構成比で0.05%アップし2.0%にします	2009年度末、共同購入の環境配慮商品の普及を2005年度より供給高構成比で0.2%アップし2.15%にします	共同購入事業部（共同購入センター）
2) 環境活動の大切さを認識する組合員を増やし、地域での連携を広げていきます	2007年度末、環境活動の手引きを作成して、各エリア会・コープ会に企画提案し、自主的な取り組みを支えます	2009年度末、環境活動の手引きを個人組合員も利用できるようにして、環境活動への参加を促進します	総合企画室組合員活動G
	2007年度末、県との連携活動に積極的に参加します	2009年度末、県との連携活動に加え市町村やNPO法人との連携に参加します	
3) 地球温暖化防止につながる省エネルギー・省資源をすすめます	2007年度末、供給高1億円当たりCO ₂ の排出量を2002年度より19.4%削減します	2009年度末、供給高1億円当たりCO ₂ の排出量を2002年度より25.2%削減します	店舗・共同購入・管理棟・事業部棟・合算
	2007年度末、店舗の供給高1億円当たりCO ₂ の排出量を2002年度対比で120.1%とします	2009年度末、店舗の供給高1億円当たりCO ₂ の排出量を2002年度対比で129.5%とします	店舗
	2007年度末、共同購入センターの供給高1億円当たりCO ₂ の排出量を2002年度より23.7%削減します	2009年度末、共同購入センターの供給高1億円当たりCO ₂ の排出量を2002年度より25.1%削減します	共同購入
	2007年度末、管理棟のCO ₂ の排出量を総供給高1億円当たり2002年度より79.9%削減します	2009年度末、管理棟のCO ₂ の排出量を総供給高1億円当たり2002年度より81.3%削減します	管理棟
	2007年度末、事業部棟のCO ₂ の排出量を総供給高1億円当たり2002年度より86.3%削減します	2009年度末、事業部棟のCO ₂ の排出量を総供給高1億円当たり2002年度より87.8%削減します	事業部棟
4) 廃棄物の削減と再資源化をすすめます	2007年度末までに情報紙である「ほっと」「プチほっと」の在庫残数重量を2005年度対比で50%削減します	2009年度末までに情報紙である「ほっと」「プチほっと」の在庫残数重量を2005年度対比で70%削減します	総合企画室 総合企画G
	2007年度末、店舗商品のロス率（廃棄・値引）を2005年度より0.6%削減します	2009年度末、店舗商品のロス率（廃棄・値引）を2005年度より1.1%削減します	全店舗
	布団の打ち直し・丸洗い利用者を2005年度対比で1%増加させます	布団の打ち直し・丸洗い事業は、(株)コープサービス事業で取り組みます	生活総合事業部
5) グリーン購入をすすめます	全事業所、全部署でのグリーン購入金額割合を50%にします	全事業所、全部署でのグリーン購入金額割合を70%にします	管理部

組合員の環境活動の取り組み

自然体験活動

- 自然観察教養講座は、ネイチャーインタープリター養成講座で3年間育んだ自然の大切さを知る自然観察の流れを継続し、参加者が自然の事を学び、自然の大切さを知ることが目的とし、6月から9月まで玉原高原や尾瀬高原などで3回行われました。



自然観察教養講座・尾瀬高原にて



フォローアップ講座・八王子丘陵にて

- フォローアップ講座（修了生向け）は、ネイチャーインタープリター養成講座の修了生向けに、力量アップと地域での自然体験企画立案に当たっての悩みや相談の出来る場の提供を目的として7月から10月まで粕川赤城大滝などで3回実施しました。

- 親子水辺の体験学習は、県内の自然河川で、水生昆虫の観察を中心に自然観察を行い、水辺の自然に触れる楽しさを親子で体験することを目的として、夏休みの7月29日と8月6日の2回開催しました。2回とも、初めての参加者が多く、親子で自然にふれて、かつ、川の生態や汚れについての学習と家庭排水の問題についても学習でき、楽しいとの人気の企画でした。



水辺の体験赤城白川にて

環境学習

- 環境学習「牛乳パックによる紙すき体験学習」は、牛乳パックによる紙漉き体験を通してリサイクルの大切さを体験することを目的とし、環境学習として紙すき体験を企画提案し、夏休み企画としてエリア会で開催されました。



紙すき体験・太田センターにて



リサイクル工場見学・ペットボトル処理工場

- 環境学習「親子リサイクル工場見学」は、牛乳パックの売却益活用企画として、西・中毛コースと東毛コースの2コース行われました。食品トレイ・ペットボトルの再処理工場見学コースは、3年目となり、実験を経験したり、現場視察がすぐ近くで見られるなどにより人気のコースとなっています。

温暖化防止活動

- 温暖化防止活動出前講座は、温暖化防止活動の理解を深めることを目的に群馬県温暖化防止活動推進センターの出前講座を開催しました。

電気ダイエットコンクールは、新規提案として10月に提案され、11月の電気使用量削減に取り組む「電気ダイエットコンクール」を行いました。参加された組合員からの「電気ダイエットコンクール事前作戦と結果報告」は、組合員からの体験事例として貴重な内容です。温暖化防止活動として支持する声が多く、2007年度は8月に行われます。

調査活動

- 大気汚染調査は、二酸化窒素の簡易測定は、気づきの活動として、組合員の自主測定になって4年目の取り組みです。参加者は、一斉測定を止めてから、大きく減り、130名の参加にとどまりました。今後は、個人向け提案の強化が課題となっています。



大気汚染測定結果検出測定・南前橋センターにて

地域と協力した取り組み

- 「群馬県マイバッグキャンペーン」は、群馬県が、温暖化防止とゴミ削減を目的に提案している群馬県マイバッグキャンペーンに参加しました。組合員に対してのマイバッグ店頭啓発活動は、理事を中心に、店舗やふれあい試食会会場、周年祭などで行われ、マイバッグ・マイバスケットの販売にも取り組みました。マイバッグキャンペーン応募カード数は、去年の15,501枚を超え、16,343枚となりました。



マイバッグキャンペーン・旧昭和店にて

- 春の環境キャンペーンは、CN企画として5生協（ぐんま・とうきょう・さいたま・いばらき・ちば）で、ダブル・エコをテーマとして取り組み、収益金の一部を群馬県内の環境保全団体4団体に合わせて453,986円を寄贈しました。

※ダブル・エコとは、生協で環境に配慮した商品を購入すると環境保全団体に収益金の一部が募金されるキャンペーンです。



環境キャンペーン募金贈呈式(4団体)

- 牛乳パック売却益還元企画は、6月にコアノンロール寄贈団体として群馬県内の福祉活動団体に公募を行い、応募された福祉団体から5団体に寄贈しました。コアノンロールを1団体につき300ロール、合計で1,500ロールを福祉活動団体に寄贈しました。



コアノンロール寄贈式・
NPO法人「かてて」にて

- 「県民エコDO！」は、群馬県や群馬県地球温暖化防止活動推進センターから提案され、コープぐんまの職員と組合員で10月から12月まで取り組みました。

● あ ゆ み ●

年度	コープぐんまの取り組み	国内外の動き
1983年 1984年	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニ3店舗、レジ袋の有料化で出店する ○業務用ラップフィルムを塩素系からポリエチレン素材に切り替える 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際熱帯木材協定採択（83年） ☆モンリオール議定書採決（87年）
1990年 (H2)	<ul style="list-style-type: none"> ○組合員の「ミルクパックの会」が牛乳パックの回収や整理を開始する ○牛乳パックの回収活動を中心としたリサイクル委員会を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化防止行動計画策定 ☆IPCC第1次報告書
1993年 (H5)	<ul style="list-style-type: none"> ○測定調査のまとめや排水チェック活動を中心とした環境・洗剤委員会を設置する ○中型3店舗にてリサイクルスタンプカードを試行導入する 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境基本法制定 ○省エネ2法施行
1994年 (H6)	<ul style="list-style-type: none"> ○コープぐんまの環境政策を策定する ○中型店3店で食品トレイとペットボトルの回収が試行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境基本計画策定 ☆IPCC第2次報告書
1995年 (H7)	<ul style="list-style-type: none"> ○前橋市地球にやさしい店舗に登録する ○諮問委員会として環境政策具体化検討委員会（環境21委員会）を設置する ○共同購入の配送車にLPG車（液化石油ガス）の導入を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ○容器包装リサイクル法制定 ☆COP1（ベルリン）開催
1996年 (H8)	<ul style="list-style-type: none"> ○桐生市環境にやさしい店舗に登録する ○環境21委員会により「環境政策の具体化」を理事会へ答申する ○40周年企画として組合員による環境フェスティバルを開催する ○夏休みに、親子水辺の体験学習を開催する ○リゼロ宮子開店、再生ペット素材を使用した制服着用する ○牛乳パックの回収を「ミルクパックの会」活動から業務に移す ○中型店全店でリサイクルスタンプカードを導入する ○中型店全店で食品トレイとペットボトルの回収がスタートする ○ミニコープ3店で食品トレイとペットボトルの回収が試行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○大気汚染防止法改正 ○水質汚濁防止法改正 ☆砂漠化防止条約発効 ☆COP2（ジュネーブ）開催 ☆ISO14001発効
1997年 (H9)	<ul style="list-style-type: none"> ○環境活動具体化検討委員会（グリーン21委員会）を設置し具体化を促進する ○牛乳パックの売却益（緑の資金）から「沼田市民の森」にブナの苗木を300本を植林する ○お買い物袋持参運動のお手伝いとして、安価な布製お買い物袋を導入する ○共同購入の商品案内チラシの回収がスタートする ○ミニコープ全店で食品トレイとペットボトルの回収がスタートする 	<ul style="list-style-type: none"> ○容器包装リサイクル法施行 ○地球温暖化対策推進本部設置 ☆COP3（京都）開催 ☆国連環境特別総会
1998年 (H10)	<ul style="list-style-type: none"> ○環境事業推進委員会が設置、事業上の環境管理の検討を開始する ○環境マネジメント・環境監査制度の取り組みを開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ○省エネ法改正・家電リ法制定 ☆COP4（ブエノスアイレス）開催
1999年 (H11)	<ul style="list-style-type: none"> ○コープぐんま独自商品すべての容器包装を非塩素系素材に切り替える ○共同購入のOCR用紙等の回収がスタートする ○事業所のオフィス系用紙（ミックスペーパーや機密文書）のリサイクルがスタートする ○独自商品の容器包装への識別表示への対応を開始する ○生産工場の廃棄物量や二酸化炭素の排出量の把握を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ○PRTR法制定 ○ダイオキシン類特別措置法制定 ☆COP5（ボン）開催
2000年 (H12)	<ul style="list-style-type: none"> ○県マイバッグキャンペーンに参加する ○容器包装リサイクル法完全施行に伴い、再商品化委託契約をおこなう ○環境監査を受け、「環境報告書」初版を発行する ○共同購入の食品トレイ、ペットボトル、たまごパック、内袋の回収がスタートする ○中型店全店でたまごパックの回収がスタートする ○廃棄物の収集運搬業者の調査と再編をおこなう ○生ごみ処理機の導入実験をおこなう 	<ul style="list-style-type: none"> ○循環型社会形成推進基本法制定 ○容器包装リサイクル法完全施行 ○グリーン購入法制定 ○リサイクル法改正 ○廃掃法改正 ☆COP6（ハーグ）開催
2001年 (H13)	<ul style="list-style-type: none"> ○食品リサイクル法に伴い、再生利用量の年1回の記録を開始する ○牛乳パック回収強化月間を6月におこなう ○97年ブナを植林した組合員が沼田市民の森に「ミルクパックの森」の看板を設置する ○マイバッグの品揃えで「マイバスケ」を展開する ○ISO14001の認証取得の取り組みを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○家電リサイクル法施行 ○食品リサイクル法施行 ○グリーン購入法施行 ○フロン破壊回収法制定 ☆COP6.5（ボン）開催
2002年 (H14)	<ul style="list-style-type: none"> ○県マイバッグキャンペーンの「ノーレジ袋デイ」に積極的に参加する ○牛乳パックの売却益の一部でトイレトーパーコアノを4800ロール8施設に寄贈する ○ISO14001の認証取得に向けて構築プロジェクト委員会を設置する ○ISO14001の規格にそって環境マネジメントの運用を開始し、内部監査を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○省エネルギー法改正 ○土壌汚染対策法制定 ○京都議定書批准 ☆COP8（ニューデリー）開催
2003年 (H15)	<ul style="list-style-type: none"> ○群馬県内小売業で初のISO14001認証を取得する ○県マイバッグキャンペーンの「マイバッグの日」に積極的に参加する ○牛乳パックの売却益の一部でトイレトーパーコアノを3000ロール10施設に寄贈する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆第3回世界水フォーラム東京で開催 ○7月環境教育推進法制定 ☆COP9（ミラノ）開催
2004年 (H16)	<ul style="list-style-type: none"> ○リゼロ宮子店（伊勢崎市）が、群馬県から「人と地球にやさしい大型店舗」として表彰される ○ISO14001年次サーベイランスで「向上」の評価を受ける ○コープぐんまの組合員1名と職員1名が、NPO地球温暖化防止ぐんま県民会議（県から指定された推進センター）の理事と正会員に選出される 	<ul style="list-style-type: none"> ○京都議定書にロシアが批准する ☆ISO14001：2004規格改訂 ☆COP10（ブエノスアイレス）開催 ○自動車リサイクル法施行（05年1月）
2005年 (H17)	<ul style="list-style-type: none"> ○群馬県より、組合員2名と職員1名の3名が、地球温暖化防止活動推進委員に委嘱される ○ISO14001、2年次サーベイランスで「向上」の評価を受ける ○コープぐんまアスベスト施設調査をホームページにて公表（9月） 	<ul style="list-style-type: none"> ○京都議定書発効（2月16日） ○クールビズ・ウォームビズの実施 ☆COP11（モンリオール）開催 ☆COP11にて京都議定書締結国第1回会議開催
2006年 (H18)	<ul style="list-style-type: none"> ○群馬県環境GS認定制度に全事業所が認定される ○ISO14001更新審査で「適合」の評価を受ける ○環境キャンペーン募金で公募を行い、県内の環境保全活動団体4団体に、合計45万円を募金する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆COP12にて京都議定書締結国第2回会議開催 ☆容器包装リサイクル法改正法が成立 ☆新国家エネルギー戦略策定（資源エネルギー庁）





発行日 2007年6月



コープぐんま

総合企画室

〒376-8523 群馬県桐生市相生町1-111
TEL 0277 (52)9628 FAX 0277 (54)1270
e-mail : gunma_hot@coopnet.or.jp
<http://www.coopnet.or.jp/gunma/>



R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています



環境に配慮した大豆インキ
を使用しています。